

## マーケットレポート

# トルコ・リラが急反発、予想外の大幅利上げを好感 ～他の新興国通貨も一先ず反発の動きへ～

9月13日の海外市場でトルコ・リラが急反発しました。トルコ中央銀行(以下、中銀)が同日の金融政策決定会合で+6.25%の大幅利上げを決定、政策金利を+24%としたことが好感された模様です。トルコ・リラは対米ドルでは前日比で+4%超の急反発となりました。

### ◆中銀の通貨防衛姿勢は一先ず評価

8月以降のトルコ・リラ急落の背景には、経常収支の赤字体質、高インフレ、対外債務の膨張といったトルコ経済の脆弱性や米国との政治的な対立の激化などの問題がありますが、「中銀が独立して正しい政策を行えないのではないか?」といった市場の不信感も大きかったと考えられます。

今回、トルコのエルドアン大統領が依然として金融引き締めをけん制する姿勢を崩していない中、中銀が市場予想(+3~4%程度)を上回る幅の利上げを決断したことで一先ず投機的なトルコ・リラ売りの動きに歯止めがかかるものと期待されます。

一方、トルコ・リラの本格的な回復には時間を要する見込みです。通貨安の進行を受け8月の消費者物価指数は前年同月比で+17.9%まで加速し、先行きは+20%を超えると見られています。中銀は13日の利上げ決定後、「必要なら追加利上げを行う」との方針を表明していますが、当面は「通貨安と物価高の悪循環」が続く中で、通貨防衛に対する中銀の「本気度」が試される展開となりそうです。

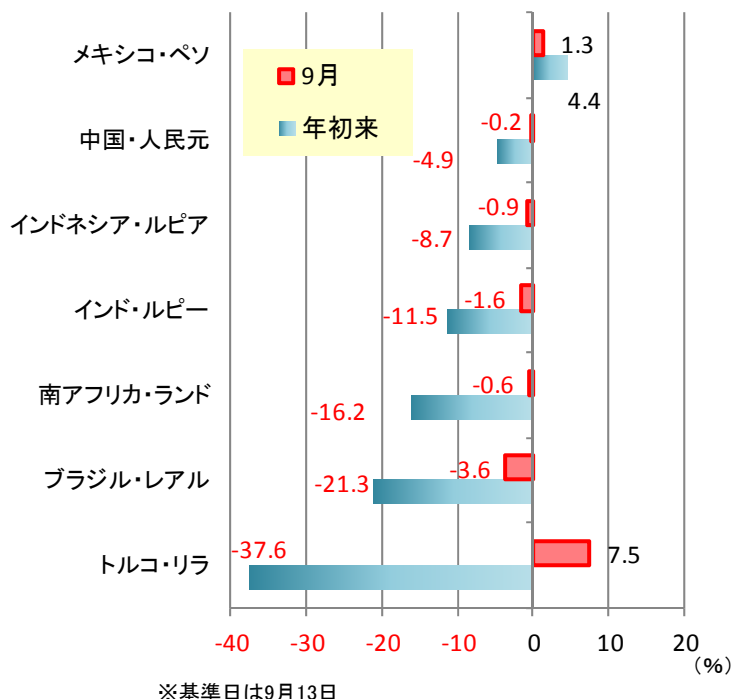
### ◆今後の新興国通貨の行方をどう見るか?

2018年の新興国通貨は米国の利上げや世界的な貿易摩擦激化などを背景に弱含みの展開が続いていますが、13日の海外市場ではトルコ・リラ以外の多くの新興国通貨も反発しました。トルコ・リラ反発で市場心理が改善したほか、米国の消費者物価の伸びが市場予想を下回ったこと、足元で米中の通商協議再開への期待が高まっていることなども、プラスに影響したものと見られます。

当面は米国の利上げ継続が予想される中、経常収支赤字国中心に資金流出への警戒感が根強いものの、今回の利上げを受けてトルコ・リラが一先ず落ち着きを見せれば新興国通貨全般にプラスに作用しそうです。

今後は新興国通貨は各国の経済や政治の実力に応じた選別物色が一段と強まりそうです。

主要新興国通貨の騰落率※(対米ドル)



(出所) Bloombergのデータを基に三井住友トラスト・アセットマネジメント作成

## 【ご留意事項】

- 当資料は三井住友トラスト・アセットマネジメントが投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- ご購入のお申込みの際は最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクを伴います。)に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆様へ帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険契約とは異なり預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。
- 当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他の一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。